1977年12月３日第三種郵便物認可（毎月18回1・2・3・5・6・7の日発行）
1997年５月24日発行　　ＳＳＫＰ増刊 通巻215号　　つくつく通信No.11

SSKP つくしんぼの会報誌

つくつく通信

“つくしんぼ”はハンディをもつ子どもたちのための放課後活動のスペースです

1997年５月号
(No. 11)

編集～フリースペース
つくしんぼ
町田市小川1511番地
TEL 0427(96)8468

ああ、道路拡張工事…

やっぱり愚痴りたい

つくしんぼが活動に使用している建物と土地は借り物です。しかも、正規の家賃すら払わず（いや払えず）、固定資産税分の支払いだけで勘弁して貰っているに過ぎない場所……。

それでもやっぱり、言いたいことは言いたいです。

車は急にとまれない

五月のゴールデンウィークが過ぎ、つくしんぼの横を通る道の拡張工事が始まりました。車一台がやっと通れる道が、幅五メートルの道路に生まれ変わるのです。

そのために、現在つくしんぼの使っている土地が削られてしまうことになりました。

この道は、いつも渋滞している町田街道と平行して走っています。この道が広くなったら、しっかり抜け道として定着してしまうことでしょう。

今までは狭くてスピードが出せませんでしたけど、これからは違います。猛スピードで車が通過していく光景が目に浮かびます。

はっきり言って、交通事故が恐いです。障害児に向かって「道路に飛び出したら危ないんだよ!!」なんて言葉が通用するぐらいなら、苦労はありません。

正しいお金の使い道

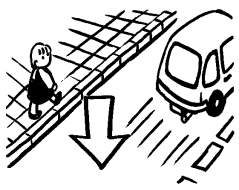
道路が広がることは決して悪いことではないことは充分わかっているつもりです。

でも、うーん、なんて言うか、ものには順番ってものがないのでしょうか？

つくしんぼが補助金を貰えない理由は「市の事業予算が足りないから」です。少なくとも市側からは（市長からも）そう説明されています。

でも、お金がなくても、道路は作るんですよね。一億近い予算をかけて。一千万円にも満たない補助金を欲しがっている貧乏な施設の土地を削ってまで……。

道路が完成したら、車がスピード出せないように、道の半分をつくしんぼの駐車場として使おうかな。もともとつくしんぼが使っていた土地なのですから……。



子どもセンター建設に思う

羨ましい……

これまで児童館が一つもなかった町田市ですが、平成11年度に「子どもセンター一号館」がオープンするとのことです。それも、施設らしい施設のまったくなかった南地区に、です。

それはそれで喜ばしいことなのですが……その計画の内容を伺い知るにつれ、障害児の親である私達は淋しい気持ちに襲われてしまいました。

子どもセンター内に学童保育が併設が決定されている、というのです。

一校区に二つも!?

私達は、まったく遊ぶ場所のない障害児のためのどうしても必要な場所として、親達の手で障害児学童を自主的に始め、今月で丸一年が経とうとしています。しかし、補助金等を貰えるめどはまったくありません。それどころか家賃補助もなく、施設固定資産税すら自分達で調達しなければならないぎりぎりの状態で活動を続けています。

その一方では、まだニーズすらはっきりしていない新たな学童の出来ることは既に決まっているというのです。

さらに驚いたことには、子どもセンターから徒歩数分のところある都営住宅の中に、もう一つの学童保育設立の予定もあるらしいのです。

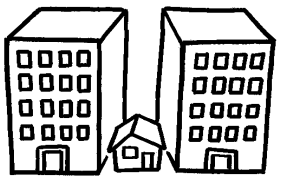
子どもセンターにせよ都営住宅にせよ、学童保育を作れば都から市へのより多くの補助金があるからしいのですが…。

ああ、疎外感……

説明するまでもなく、学童保育は共稼ぎ等で放課後の保育の欠ける子ども達のための施設です。その設立を望む声が多数あるのは当然のことです。

しかし、ちょっと待って下さい!! 働く権利を主張する母親達の声と共に、どうして障害児がいるために働きたくても働けない母親達の声を聞いてくれないのでしょうか？

行政側はすぐ「学童でも障害児を受け入れている」と言います。でも市内全域で、一体何人の障害児が学童に通っているというのでしょう？ 障害の程度の思い子どもは、結局入れて貰えていないのが現実なのではないのでしょうか？



隣接地域に二つの学童保育を作るのだったら、せめて片方を障害児のための施設にする、ぐらいのことを考えては貰えないものなのでしょうか。

五月二十二日（木）の午後六時から、小川小学校内の「わんぱく学童保育」さんにおいて、子どもセンターに関する市側との意見交歓会があるそうです。（そんなのがあるなんて、みなさん知っていました？）

この際ですから、障害児の親達もこぞって参加して意見を言ってくる、なんてことが必要なのかも知れませんね。

♪♪♪つくしんぼ日記♪♪♪

4月2日(水) 天気 曇り

天気はちょっと悪かったけど、桜はもう思いっきり満開!! つくしんぼで遊んでいるのはもったいない、というわけで、鶴間公園までみんなでお花見＆写生大会に行きました。総勢26人の大所帯です。

他にもたくさんのお花見のグループが来ていました。でも絵筆を握っているのはつくしんぼの仲間たちだけ。ちょっとした絵描き気分です。

つくしんぼで作って持って行った炊き込みご飯はすごくも美味しかったし、みんなで桜の花の絵も描けたし、ヘトヘトになるまで走り回ったし、とっても楽しいひとときを過ごせました。

賛助会ご入会・ご更新

ありがとうございました

渡部様、大工原様、東條様、新井様、佐藤様、山下様、杉崎様、高尾様、坂井様、濱本様、三宅様、稲木様

（4月）

ボランティア＆ご寄付

ありがとうございました

1977年12月３日第三種郵便物認可（毎月18回1・2・3・5・6・7の日発行）
1997年５月24日発行　　ＳＳＫＰ増刊 通巻215号　　つくつく通信No. 11

SSKP

つくつく通信

“つくしんぼ”はハンディをもつ子どもたちのための放課後活動のスペースです

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪
つくしんぼは、月曜日から土曜日までの午後１時から６時まで開いてます。
♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

つくしんぼ 交遊録

子どもは変わる

志村 治能

つくつく通信の原稿以来を受けて、ふたつ返事で受けてしまった私……。

さて、なにを書こうか。つくしんぼの子どもたちのこと？　といっても、日々かかわっていないし、それでは気になっているセラピーのこと？　でもこれでは、内容がかたいし。あれこれ思いつつ……。

つくつく通信を読み返し、ない知恵をしぼりだそうとしても、ないものは出てこないのか……。と、そうでもないような……。たしか「なんでもいいですよ」と言われたし、「好きなように書いて下さい」とも言っていたし……。

ということで、今回タイトルにありますように“子どもは変わる”ということについて書きたいと思います。どこからか「そんなの当たり前」というご指摘が出てきそうですが、そういう当たり前のこと（感謝する気持ちとかね）を、とかく我々は忘れがちだと思いませんか？

現在、私の主催している絵画・造形教室に集まって来ている子どもたちの９割ちかくにハンディがあります。

はじめの頃は、健常といわれる普通の子どもたちばかりでした。この子どもたちのほとんどは自分の意思で入会し、退会していきました。（もちろん家庭の都合を除いてです）

一方、ハンディをもつ子どもの場合、たいていお母さんが絵を描いて欲しくて、連れて来ます。そこには子どもの意思がないかも知れません。それでも、いろいろなことを経験する（なにか交流教育の意義のような言葉ですが）ということは、たいへん良いことだと思いますし、学校・幼稚園・保育園または病院以外の場所に、他のお友達のいるところに通うというのは、とても良い刺激になっているのではないでしょうか。

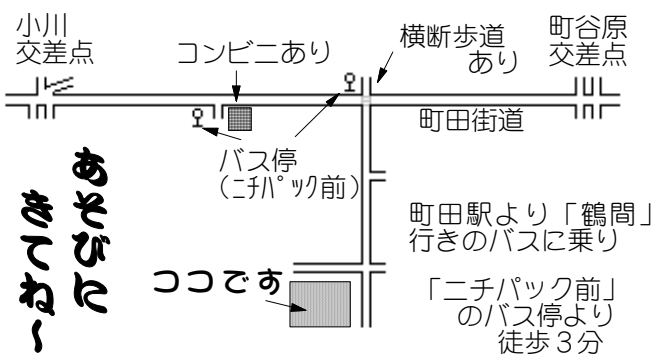
何回か連れられて来るということを積み重ねていくうちに「ここは楽しくて、面白くて、安心できる場所」というように理解してくれます。ほどよい刺激のなか、無理強いせずにかかわり、積み重ねていくということが、必ず子どもを変えます。子ども自身の発達もありますが、ここ数年の実践指導のなかで、確信したことです。

これをお読みの方で、教室等の問い合わせがありましたら、なんでも構いませんのでお尋ね下さい。

またつくしんぼで、特別企画“親子リトミック”や絵画・造形”をやらせて頂けたら嬉しいな!!　と思っています。

志村治能（はるの）さんは、すみれ療育園で長い間ハンディをもつ子どもたちの世話をなさっていた先生で、つくしんぼ開設当時からいろいろとお世話になっている方です。
連絡は、0427-49-6757 の方へどうぞ、とのことです。

♪つくしんぼの地図♪



田園都市線「すずかけ台」駅からだと徒歩15分です

つくしんぼホームページ まもなく公開!!

もっともっとつくしんぼのことを知って頂きたくて、インターネットのホームページを開設することになりました。

製作の方もほぼ完成し、あとは子ども達の紹介ページの作成を残すのみです。（お母さん達、原稿と写真を早く早く!!）

「障害児のための学童」専門のホームページは、今のところないようです。ゆえに、完成すれば……ジャーン!!　つくしんぼが日本初となるわけです。（エッヘン）

アドレスは来月号で発表させて頂きますので、みなさん、ぜひぜひ見て下さいね。（でも完成しなかったらどうしよう……）

フリースペースつくしんぼ 賛助会ご入会のお願い

私たちは、ハンディを持つ子ども達の地域内での放課後活動の場としてフリースペースつくしんぼを昨年五月に開所しました。

しかしながら、公的補助を受けていないつくしんぼの運営状況は、極めて厳しい状態にあるのが現実です。

そこで、皆様にお願いがございます。本当に勝手なお願いで申し訳ないのですが、「フリースペースつくしんぼ賛助会」にご入会しては頂けませんでしょうか。

賛助会費は年間、一口二千円でお願いしております。会員になって頂いた方には、毎月、この機関誌「つくつく通信」お届けさせて頂きます。年会費のお支払いは、関係者に直接お渡し頂くか、お近くの郵便局より下記の口座番号にお振込いただければ幸いです。

郵便振替口座番号　00120-7-168283
加入者口座名称　　フリースペースつくしんぼ

編集後記

今月号の記事が「愚痴二題!!」みたいになってしまい、読んで下さってる方々をクラ～イ気分にさせてしまったらどうしよう……なんて、ちょっと不安に思ったりしています。

つくしんぼの活動を始めてみて、あらためて障害児者の暮らしが、いかに世の中から疎外されてしまっているかをつくづく痛感させられる今日この頃です。

学童保育のために頑張っている親御さんを見ていると、なんだかとっても羨ましく思えてしまいます。だって、よりよい暮らしのために頑張っているのですから。

それに比べて障害児の親達の頑張りは、マイナスの部分をなんとかプラスマイナスゼロに持ってゆきたいだけの活動に終始してしまっているのが現実です。

でんでんむしさんじゃないけど、プラスアルファへの道のりって、なんでこんなに険しいんでしょう。

発行所　東京都世田谷区砧6～26～21
身体障害者団体定期刊行協会
定価50円

～この通信を掲示、あるいは置かせて頂けるお店や施設等を探しています。よろしかったらご連絡下さい～